

オペラ『蝶々夫人(マダム・バタフライ)』 (長崎県、長崎市)

会誌編集専門委員会

『蝶々夫人』

「♪ある晴れた日に～」と歌われるアリアで有名な、長崎を舞台にしたイタリアオペラ『蝶々夫人』。

原作は一度も日本に来たことがないアメリカ人の作家ジョン・ルーサー・ロング(1861～1927)によって、1898年に書かれた小説である。1890年代初頭に長崎外国人居留地の東山手に住んでいたロングの姉サラ・ジェニー・コレル(鎮西学院の第5代校長アービン・コレル夫人)から聞いた長崎の話をもとに書いた。その後1900年には劇作家デーヴィッド・ベラスコ(1853～1931)によって戯曲化され、ニューヨークで初演された。

『ラ・ボエーム』や『トスカ』などで有名なイタリア人の作曲家ジャコモ・プッチーニ(1858～1924)は、この戯曲をロンドンで見てもオペラ化を考える。それには19世紀後半にヨーロッパでブームになったジャポニスムが動機の一つになっていたかもしれない。そして楽譜やレコードなどの日本の音楽素材を熱心に集め、

駐イタリア大使夫人の大山久子に音楽面での助言を仰いだり、日本人女性のイメージをつかもうと、イタリアを訪れた人気女優の川上貞奴に会ったりと努力した。

しかし1904年2月17日、ミラノのスカラ座で行われた初演は大失敗であった。そのためプッチーニはただちに改訂し、同年5月28日にブレーシャで再演して大成功を収めた。以後、何度も改訂が行われ、現在上演される版は1906年にパリで初演されたバージョンがもとになっている。上演時間は全3幕で約2時間20分。

アメリカに帰国した夫ピンカートンを偲ぶアリア『ある晴れた日に』は、第2幕の最初の頃に歌われる。それ以外はオペラファンでなければ、ほとんどが聴いたことがない曲だろう。独立して演奏できる序曲や前奏曲といった管弦楽曲がないのだ。ただし、『さくらさくら』や『お江戸日本橋』などいくつかの日本の旋律が出てくる。

ストーリー

1895年頃、砲艦アブラハム・リンカーン号乗務のアメリカ海軍士官のピンカートン(テノール)は長崎に寄港した際に、土族出身で今は芸者の身の蝶々さん(ソプラノ)と結婚し、港の見える高台に居を構える。どのくらい一緒に住



写真1 DVD『蝶々夫人』のパッケージ



写真2 ①東山手洋風住宅



写真3 ②長崎港俯瞰

んだかは不明だが、軍艦の寄港から考えると、それほど長くはないと思われる。そしてピンカートンがアメリカに帰国して3年、駐長崎アメリカ領事シャープレス(バリトン)は、ピンカートンが母国でアメリカ人女性ケイトと結婚していると告げようとするが、可愛い男の子まででき、必ず戻ると言った夫の言葉を信じ続ける蝶々さんの純真さを見て、言うことができない。やがて、ピンカートンが乗る船が入港するが、このことを知ったピンカートンは、自らを恥じ、蝶々さんと会わずに立ち去る。シャープレスは子供の将来を案じ、ケイトに預けるように説得する。すべての事情を察した蝶々さんは、夫が来れば子供を渡す約束をして、ひとり父の遺品の短刀で命を絶つ。ピンカートンの「バタフライ!バタフライ!」と叫ぶ声で幕となる。

舞台

長崎の外国人居留地が舞台。1894年夏に勃発した日清戦争は、翌年の4月に講和条約が締結された。この戦争により日本も列強国の仲間入りをし、欧米列強に認められることとなった頃である。

またトマス・ブレイク・グラバー(1838～1911)の内妻であったツル(1851～1899)は、蝶々夫人のモデルともいわれている。ツルは接客の際に蝶の紋の着物を身に付け、外国人たちから「お蝶さん」と呼ばれていたという。1866年頃にグラバーに引き合わされ、女の子ハナと倉場富三郎をもうけている。前述のコレル夫人がグラバーやツルに会ったとしても不思議ではない。

『蝶々夫人』ゆかりの場所を“ある晴れた日に”訪ねた。

① 東山手洋風住宅

原作で蝶々さんが住んでいるとされるヒガシヒル、つまり東山手の港の見える高台の家のイメージ。明治20年代後半に、社宅または賃貸住宅として建設されて現存する建物。

② 長崎港俯瞰

港の見える高台の家から港を眺めるイメージ。グラバー園から望む現在の長崎港口方向。

③ オランダ坂

港の見える高台の家まで行くための坂道のイメージ。名前は居留地の石畳坂を「オランダさんが通る坂」と呼んだことに由来している。東山手洋風住宅の脇にて。

④ 南山手地区

明治30年代当時をイメージ。南山手地区で、稜線上の松の木の下にグラバー邸の屋根を望む。

⑤ プッチーニ像

イタリアの大理石で造られた作曲家の像。イタリア大使館から寄贈。グラバー園にて。

⑥ 三浦環(1884～1946)像

『蝶々夫人』を30年の長きにわたり世界各国で歌い続けた世界的プリマドンナ。グラバー園にて。

(文 塚本敏行)

<参考資料>

- 1) 『蝶々夫人』DVDオペラ・コレクション4 ジャコモ・プッチーニ 2009年 デアゴスティーニ・ジャパン
- 2) 『グラバー園公式ホームページ』
(<http://www.glover-garden.jp/riyousuru.html>)
- 3) 『長崎Webマガジン』
(<http://www.at-nagasaki.jp/nagazine/hakken0411/index.html>)

<写真提供>

- 写真1、2、4、5 塚本敏行
写真3、6 遠藤徹也
写真7 中島知彦



写真4 ③オランダ坂



写真5 ④南山手地区(現地案内板より)

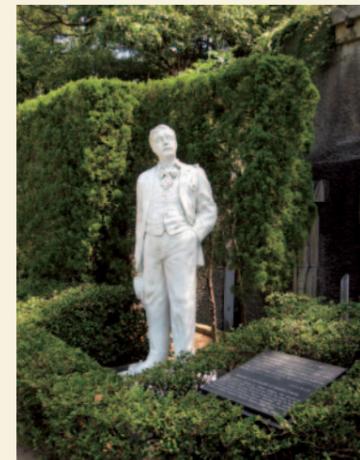


写真6 ⑤プッチーニ像



写真7 ⑥三浦環像